

1. 房総の偉人

この人々は、千葉県が生んだ偉大な先覚者たちの中から、県がとくに選んだ20人です。(生年順による。)

ちば つね たね
千葉 常胤 (1118~1201)
猪鼻城によった千葉氏最盛期の城主。

にち れん
日 蓮 (1222~1282)
安房郡天津小湊町出身。日蓮宗の開祖。「立正安国論」を説いた人。

ひしかわ りろ のぶ
菱川 師宣 (不詳~1694)
安房郡鋸南町出身。浮世絵版画の創始者。

かい こ しんべえ
靦 翻 新兵衛 (初代・定明) (1632~1704)
捕鯨の父。安房郡勝山で代々捕鯨に従事。

あお き こん よう
青木 昆陽 (1698~1769)
山武郡九十九里町と千葉市幕張町で甘藷を試作し、普及に努め、大凶作から人々を救った。

い のう ただ たか
伊能 忠敬 (1745~1818)
山武郡九十九里町出身。18歳で佐原の伊能家を継ぐ。日本最初の実測地図を完成した人。

おお ほん ゆう がく
大原 函学 (1797~1858)
世界最初の産業信用組合をつくり、農民教育と農村改革を実践した。

さ どう たい ぜん
佐藤 泰然 (1804~1872)
新しい外科手術や種痘など、近代医学の先駆者。

ほつ た まさ よし
堀田 正睦 (1810~1864)
佐倉市出身。佐倉藩主。幕末の進歩的の老中として明治開化に多大の貢献をした。

さ どう しゅん かい
佐藤 舜海 (1827~1882)
香取郡小見川町出身。医家。順天堂病院を創立。東京大学医学部前身の大学東校主宰者。

にし むら しげ き
西村 茂樹 (1828~1902)
佐倉市出身。佐倉藩の執政。明六社をおこし進歩的文明評論で世を指導「国語辞典」「古事類苑」を編さん。

しば はら やわら
柴原 和 (1832~1905)
千葉県初代県令。当時の日本三県令の一人。教育に力を入れ、千葉大学医学部の基礎をきずいた。

さ どう し づ
佐藤 志津 (1851~1919)
佐倉市出身。情熱の女子教育家。東京女子美術学校初代校長。佐藤高等女学校を設立。

つば い げん どう
坪井 玄道 (1852~1922)
市川市出身。教育家。学校体育の基礎を確立した人。

いしかわ くら じ
石川 倉次 (1858~1945)
市原市南総出身。教育家。フランスの盲人ルイ・ブライユの考案した点字を50音式に翻案した人。

い どう さちお
伊藤 左千夫 (1864~1913)
山武郡成東町出身。近代歌壇の巨匠。短歌「アララギ」の発刊を主宰。

つ だ うめ こ
津田 梅子 (1864~1929)
女子教育の母。わが国最初的女子米国留学生となる。今日の津田塾大学を創立した。

しら とり くら きち
白鳥 庫吉 (1865~1942)
茂原市出身。歴史学者。東京大学名誉教授。「満州歴史地理」「朝鮮歴史地理」をあらわした。

すず き かんたろう
鈴木 貫太郎 (1867~1948)
東葛飾郡関宿町出身。海軍大将。第2次世界大戦終末時の首相。

くにきだ どっ ぽ
国木田 独歩 (1871~1908)
銚子市出身。詩人。作家。自然主義文学の重鎮。「武蔵野」「牛肉と馬鈴薯」等の著書がある。